

※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。



土壌病害に感染させないために予防的防除を行いましょう！

気温の上昇と共に、各種病原菌による土壌病害が発生しやすくなります。

薬剤による防除や適正な水管理、高温対策などを行い、樹勢を保つようにしましょう！

萎れ症状等で根傷みの兆候がある場合は、早急に酸素剤の使用など根の回復に努めましょう！



おすすめ 薬剤	リゾレックス水和剤※ 	ユニフォーム粒剤 	ピシロックフロアブル※ 	タチガレン液剤 
FRAC	14	11,4	U17	32
適用病害	立枯病 等	立枯病(リゾグニア菌)	立枯病(ピシウム菌) 等	発根促進
希釈倍率	500～1,000倍	18kg/10a	500倍	1,000倍
使用方法	土壌灌注	土壌表面散布	灌注	土壌灌注
使用時期	生育期	定植時又は生育期	発病前	挿し芽直後
使用回数	5回	3回	5回	1回



似ているこの症状はどんな病気？～立枯病～

※花き・観葉植物登録

キクの「立枯病」には3種類あります。

①フザリウム立枯病(*Fusarium solani*) ②ピシウム立枯病(*Pythium*) ③立枯病(*Rhizoctonia*)

どの立枯病も、**根や地際部**から病原菌が侵入します。また、症状も**地際部の黒変や根の褐変**など、

似ている部分が多いため区別がとても難しいです。6～8月に発生が増加するため、注意が必要です！

また、病原菌によって効果の高い薬剤が異なるため、疑われる症状が発生した場合は、**病害虫診断**を行い、適切な対策を早急に実施することをおすすめします！



2種類の立枯病の写真
区別できますか…？
正解は一番下に!!

今月のおすすめ防除



地域の防除事例を基に作成しています(輪菊栽培)。品種、栽培条件によっては薬害が発生する
場合があるためご注意ください。さらに、展着剤・葉面散布剤等を加用する場合もご注意ください。

時期	IRAC FRAC	対象病害虫	薬剤名	予防	治療	使用量・希釈倍数	使用時期	回数
定植時	P02	白さび病	inochioキクツチャ粒剤	○	—	6～9kg/10a	定植時	1回
生育初期	M03	白さび病	アントラコール顆粒水和剤	○	—	1,000～2,000倍	発病前～ 発病初期	6回
	23	アザミウマ類・アブラムシ類 ハダニ類	inochioセイレーンフロアブル	—	—	2,000倍	発生初期	3回
消灯時	11	褐斑病・黒斑病 白さび病	メジャーフロアブル	○	○	2,000倍	発病初期	3回
	5	アザミウマ類・オオハバコガ ハダニ類 等	ディアナSC※	—	—	2,500～5,000倍 (対象害虫により2,500倍)	発生初期	2回
発蕾時	3	うどんこ病・白さび病	アンビルフロアブル	○	○	1,000倍	発病初期	7回
	30	アザミウマ類・ハダニ類 オオハバコガ・ハスモンヨトウ	グレーシア乳剤	—	—	2,000倍	発生初期	2回
破蕾期	7	白さび病	カナメフロアブル	○	○	4,000～8,000倍	発病初期	3回
	34	アザミウマ類	ファインセーブフロアブル	—	—	2,000倍	発生初期	2回

立枯病写真の正解→左：ピシウム立枯病 右：フザリウム立枯病

※花き・観葉植物(りんどうを除く)登録